

都市再生整備計画 事後評価シート  
折尾地区

平成24年3月

福岡県北九州市

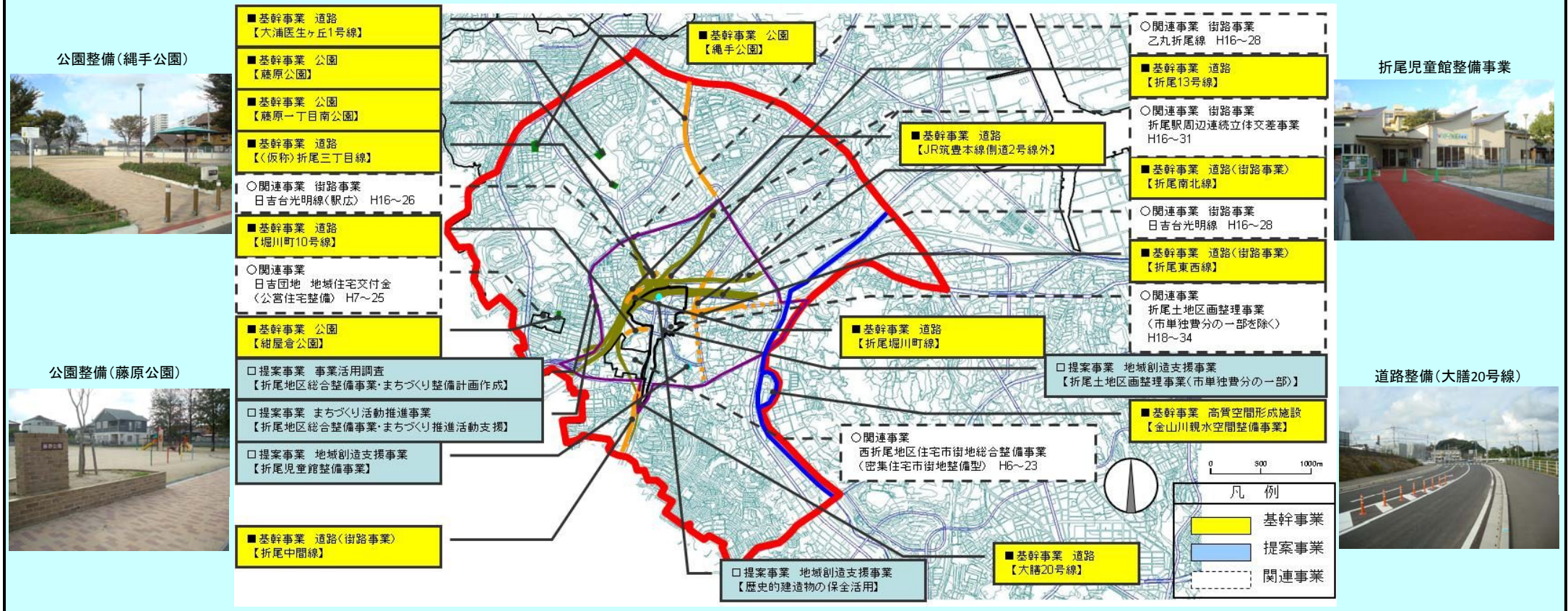
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	北九州市	地区名	折尾地区		面積	965ha				
交付期間	平成19年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成23年度	交付対象事業費	2,418.0百万円	国費率	0.4					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路：折尾13号線、(仮称)折尾三丁目線、堀川町10号線、大膳20号線、大浦医生ヶ丘1号線、折尾南北線、折尾東西線、折尾中間線 公園：藤原公園、藤原一丁目公園 高質空間形成施設：金山川親水空間整備事業									
		提案事業	地域創造支援事業：折尾児童館整備事業									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路：松壽山大膳1号線 公園：則松西1号公園、美吉野公園、則松公園		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業										
	新たに追加した事業	基幹事業	道路：折尾堀川町線、JR筑豊本線側道2号線外 公園：紺屋倉公園、縄手公園		道路：駅へのアクセシビリティの向上、交通結節機能の更なる強化、及び安全な歩行者通行の確保を図るため。 公園：快適な都市空間づくりを行い生活環境の魅力を高めるため。			事業を追加することで、目標達成にプラスの影響があるが、指標及び数値目標は据え置く。				
提案事業		地域創造支援事業：土地区画整理事業、歴史的建造物の保全活用 事業活用調査：まちづくり整備計画作成 まちづくり活動推進事業：まちづくり推進活動支援		土地区画整理事業：良好な市街地環境の形成を図るため。 歴史的建造物の保全活用：現折尾駅舎や煉瓦などの保全・活用を図り、歴史的建造物を活かしたまちづくりを進めるため。 まちづくり整備計画作成：道路等の公共施設・民有地の景観づくりや土地利用計画等を作成し、魅力ある都市空間の形成を図るため。 まちづくり活動推進支援：事業PRや工事期間中のまちのにぎわいづくりを行いながら、地元住民との協働でのまちづくりを進めるため。			土地区画整理事業については、指標4を追加した。 その他については、事業を追加することで、目標達成にプラスの影響があるが、指標及び数値目標は据え置く。					
交付期間の変更	当初変更	平成19年度～平成23年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							-		
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	JR折尾駅の乗降客数	人/日	33,555	H17	30,500	H23	31,850	○	あり	JR折尾駅周辺の道路整備等により、車での駅へのアクセシビリティが向上するとともに、歩行者空間の整備等により歩行者などの駅へのアクセシビリティも向上したことが、乗降客数の減少抑制に繋がった。また、本地区の街なかエリアを中心に住宅等が新築され、人口が一部増加したことなども、乗降客数の減少の抑制に寄与した。	平成24年7月
	指標2	居住人口	人	54,251	H17	54,000	H23	53,340	△	あり	市全体と同傾向である折尾地区の人口減少について、本事業により抑制することを目標とした。事業進捗により、目標値まで減少を抑制することができなかったが、平成17年度から22年度までの減少率は、市全体の減少率に比べ、0.34ポイント抑制された。	平成24年5月
	指標3	児童館利用者数	人/年	19,673	H17	22,000	H23	27,430	○	あり	新折尾児童館の取容可能人数の増加により、放課後児童クラブの受入れ人数の拡充が可能となり、目標を上回り達成された。また、公園整備なども子育てしやすいまちづくりの推進に貢献した。	平成24年4月
	指標4	折尾土地区画整理事業施行地区内の老朽住宅棟数	棟	293	H17	238	H23	261	×	あり	土地区画整理事業施行区域内の家屋移転補償により、老朽住宅を55棟削減する計画であったが、移転先の選定などに時間を要したことから、目標棟数まで達成できなかったものの、除却箇所については、密集状況が改善され、防災面でも改善の方向に向かっていることは評価できる。	平成24年4月
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	街なかにおける居住人口	人	24,159	H17			24,660		あり	当該地区の内、街なかエリアにおける住宅等の新設に加え、公園整備や金山川親水空間整備事業等により、居住環境が向上し、街なかにおける居住人口が増加した。	平成24年5月
その他の数値指標2	街頭犯罪認知件数	件	409	H17			144		あり	土地区画整理事業による用地取得箇所を活用して、暫定的な駐車場の整備・プランター等による環境整備に向けた取組みが心理的な犯罪の抑制に繋がっており、街頭犯罪者数が減少するなど、安全で快適な住環境の形成につながった。	平成24年4月	
4) 定性的な効果発現状況	平成18年4月、「折尾地区総合整備事業」を契機に、地域住民等(自治会・商業組合等)で構成するまちづくり団体「おりお未来21協議会」が設立された。本市では、平成20年6月に協議会が策定した「折尾まちづくりビジョン」を尊重し、地域住民と連携しながら折尾地区のまちづくりを推進しており、持続的なまちづくり体制の構築が進んでいる。また、「折尾地区総合整備事業」に関するPRや、情報誌等による幅広い周知などによる取組みにより、地域住民の事業に対する協力につながっている。 指標3の目標である児童館利用者数は、新児童館の整備・供用により増加しており、アンケート調査においては、以前は施設の改善に対する要望が多かったが、最近の調査では施設に対する要望はなく、利便性が向上したと考えられる。 一方、指標4の目標は達成できなかったが、土地区画整理事業による用地取得箇所を活用して、暫定的な駐車場の整備・プランター等による環境整備に取り組み、その他の事業用地においても、おりお未来21協議会の主催によるおりお博(灯明)などのイベントをはじめ、様々な団体による地域行事が実施されるなど、快適な環境づくりやにぎわいづくりを進めている。特にイベントについては、集客もよく近隣の事業者からは「是非継続してもらいたい」、等の声が上がると、街のにぎわいにつながっていると考えられる。											
5) 実施過程の評価	モニタリング		実施内容			実施状況			今後の対応方針等			
			なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			なし			
	住民参加プロセス		・「おりお未来21協議会」が折尾地区の将来の姿やまちづくりの目標を定めた「折尾まちづくりビジョン」を策定 ・「おりお未来21協議会」と行政との協働による「折尾駅舎保全・活用基本方針」を策定 ・折尾駅周辺景観デザイン計画策定にあたっての「おりお未来21協議会」とのワークショップ ・金山川ごみゼロ・クリーン清掃 ・折尾土地区画整理事業の意見交換会・事業説明会			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 今後も地元住民と連携し、必要に応じて実施していく。			
	持続的なまちづくり体制の構築		地元まちづくり協議会運営支援			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 協議会の運営等について、まちづくりのパートナーとして引き続き支援していく。			

## 様式2-2 地区の概要

### 折尾(福岡県北九州市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: JR折尾駅周辺の鉄道連続立体交差事業、街路事業、土地区画整理事業等を総合的に実施することにより、交通結節機能を活かした魅力あるまちづくりを推進する。 目標1: 鉄道連続立体交差及び駅周辺における道路整備を推進し、駅のアクセシビリティを高めることにより、交通結節点としての機能強化を図る。 目標2: 折尾駅南側における密集住宅街を改善し、安全で快適な住環境の形成を図る。 目標3: 交通利便性に優れた特性を活かし、街なか居住を促進するとともに、魅力ある快適な都市空間の形成を図る。 目標4: 全国のすう勢を上回る少子高齢化に対応するため、子育てしやすいまちづくりを推進する。	JR折尾駅の乗降客数	単位: 人/日	33,555 H17	30,500 H23	31,850 H23
	居住人口	単位: 人	54,251 H17	54,000 H23	53,340 H23
	児童館利用者数	単位: 人/年	19,673 H17	22,000 H23	27,430 H23
	折尾土地区画整理事業施行地区内の老朽住宅棟数	単位: 棟	293 H17	238 H23	261 H23



#### まちの課題の変化

・JR折尾駅周辺の道路整備等により、駅へのアクセシビリティが向上し、駅の乗降客数の減少が抑制されているが、駅へのアクセス道路などの未整備路線の早期供用を図り、さらなるアクセシビリティの向上が必要である。  
 ・住環境は改善の方向に向かっているものの、土地区画整理事業施行地区内の老朽住宅は残っている。引き続き、老朽住宅の除却とともに道路等の基盤整備を行い、さらに安全で快適な住環境の形成を図る必要がある。  
 ・公園や河川の親水空間の整備等により、都市空間の魅力が向上し、当該地区の街なかにおいては居住人口が増加した。  
 ・新児童館が整備され、放課後児童クラブの受入対象を拡充したことなどにより、子育て環境が向上した。  
 ・鉄道の高架化により生まれる高架下空間や既存市場周辺エリアなどについて、商業を中心とした賑わい空間の形成が求められている。

#### 今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

■まちを一体化し、駅へのアクセシビリティを向上させるため、鉄道の連続立体化及び街路・道路等の整備を推進する。  
 ■折尾駅南側の密集市街地の解消を促進し、安全・安心で快適な住環境の形成を図るため、土地区画整理事業等の推進を図る。  
 ■生活支援拠点にふさわしい魅力あるにぎわい空間の形成のため、民有地における商業・住宅開発等の促進を図る。  
 ■公共用地や高架下の利用・活用方針、景観づくりなど、地域住民や学生と協働によるまちづくりを推進する。